

世界一入場のむずかしい美術館

森田 邦夫

私は、在職中の海外出張および休暇、そしてリタイア後は春秋年2回を使って、そろそろ100館近い世界中の絵画を主とした美術館を見学してきました。その中で、とても有名ですが、もっとも入場のむずかしい美術館を紹介します。米国のフィラデルフィア近郊にあるバーンズ財閥の所有するフランス印象派のコレクションです。

まず第一は、米国に在住している人しか予約の申し込みができないことです。そこで、私たち夫婦は在米の友人（米国人）に頼みました。それも3カ月以後でないと取れないのです。しかも、金曜日、土曜日各200人、日曜日は午後のみ100人という制限があります。この入場規制は見学した時にわかりました。建物の狭さが原因でした。しかし、月曜から木曜はなぜ見せないのかわかりませんでした。そして、入場には注意書（英文）がついてきました。

- 一、展示品（絵を含む）には18インチ（約50センチ）以上近づいてはいけない。
- 一、14歳以下の子供は1人につき1人の大人がつきそうこと。
- 一、飲食は一切だめ。
- 一、スケッチ、写真、絵を描くこと、デッサン、一切禁止。
- 一、かかとの直径が2インチ（5センチ）以上の靴を履いて入場すること。
- 一、室内は15℃にエアコンしているのでセーターまたは、長袖のシャツを着ることをおすすめする。

一、コート類はチェックを受け、OKのものだけ着用可。

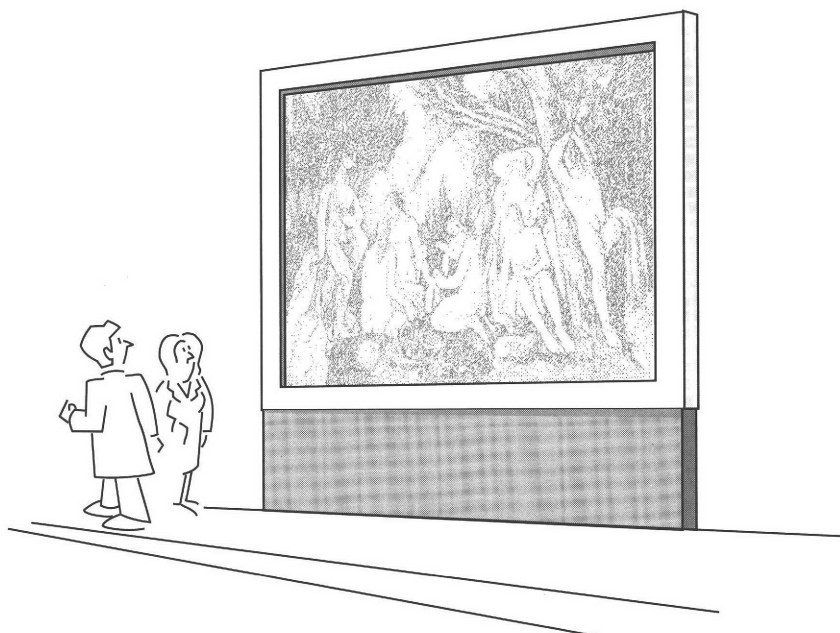
一、ハンドバッグ類は持ち込み禁止（コインロッカーに入れる）。

以上ですが、常識の範囲のものもありますけれど、ちょっとどうかたと考えさせられるものもあります。

それではこの規則を守ることにし、送られてきた入場券（1人6ドル）を渡し、紙上ではありますが、内部をご案内しましょう。

*

入り口のドアを開けるといきなりセザンヌの大水浴といわれる縦1.3メートル、横2.2メートルの大きな絵が目にとびこんできます。この絵がバーンズ氏とフィラデルフィア美術館の騒動のもとになるのですが、それは後ほど述べます。なにしろルノワールの絵が180点、セザンヌが69点、マチス60点、他にピカソ、スーラ、ルソー、モジリアーニ、モネ、マネ、ドガ、ゴーギャン、ロートレックなどなど、もうところ狭しと壁という壁に目線の高さから天井まで、べたべたと飾りつけてあります。これは実は仕方がないことなのです。バーンズ氏の自宅を改造して展示しているからです。中央の大広間と両側に広がる小部屋各6部屋（1部屋約10帖）が1階で、2階は詳しくはおぼえていませんが、10帖ほどの部屋が8部屋ぐらいだと思います。この狭さの中に、約400点という印象派および後期印象派の大小さまざま絵を飾ってあるわけです。



パリのオルセーサンクトペテルブルグのエルミターージュが印象派の殿堂として有名です。が、私の見学した所では、このコレクションが世界一の数だと思えます。

めずらしいのは絵のそばに作者、題名の表示がありません。部屋の中央に木製ベンチがあって両側にポケットがあり、ハードプラスチックでシールした壁面ごとの作者他のコメントを書いたものが差し立ててあります。狭さゆえ、やむをえないのでしょうか。

*

バーンズ氏は、フィラデルフィア美術館の専門家に、あるとき1910年頃から10年間ほどで買い集めたコレクションの鑑定を依頼したのだそうです。その返事は、セザンヌの大水浴画は我が方のもの方がサイズが大きく絵が美しいとか、それ以外のものはガラクタ同然だとか酷評したそうです。バーンズ氏は怒り心頭に発し、一切公開しないと決心したのです。遺言もあったのですが、1994年に建物の改築をして、一般公開することになったのでした。

ごく最近サザビーズのオークションでセザンヌの静物画の小品が、30億円で落札されました。下世話なことで恐縮ですが、このバーンズ財閥のコレクション約400点といえば、単純計算しても2兆円はくだらないと思えます。では、彼は購入するとき、相当のお金が必要だったと思えます。実は彼は医科大学を卒業し、薬の研究の結果銀軟膏アルジロルを造りだし、これがよく売れ富を得た、アメリカンドリームを経験したひとりでした。

*

ちなみに、セザンヌは約100点の水浴画を描いていますが、大水浴と称される横2メートルもあるものは3枚しかありません。バーンズコレクション、フィラデルフィア美術館とロンドンのナショナルギャラリーにあります。私素人の印象では、フィラデルフィアのが一番良いと感じました。たくみなライトアップも良い助けになっているでしょう。他はよく似たものどうしてではないでしょうか。

入場のむずかしさと逆に、鑑賞後の満足感は2倍ほどの感動がありました。